



18リットル缶のリサイクル率は93.7%に向上 5月18日「18リットル缶の日」に最新情報を公式ウェブサイトで公開 同時に小学生以上を対象とした工場見学情報なども掲載

18リットル缶メーカー33社で組織する業界団体、全国18リットル缶工業組合連合会(事務局:東京都中央区、理事長:熊野達夫、03-5640-4041)は、2014年度の18リットル缶のリサイクル率が93.7%になったことを「18リットル缶の日(5/18)」に合わせて、公式ウェブサイトで発表します(表1)。リサイクル率の調査は、18リットル缶の業界団体発足後初めて、2013年に実施しました。業務用用途での調査は従来追跡困難といわれてきましたが、この調査の結果、2012年度で93.3%であることがわかりました。今回の最新データでは93.7%と0.4%の向上が明らかになりました。リサイクル率の高い食品・食油の構成が増えたためリサイクル率が向上したものと推定されます。当連合会では、今後も定期的に関係するリサイクル率の状況を発表し、18リットル缶の利用普及に努めます。

また2015年7月から11月にかけて、地域の小学生以上を対象とした工場見学会を予定しています。「18リットル缶のできるまで」を紹介する見学会です。詳しい日時、場所については決定次第、公式ウェブサイトに掲載します。

今後も当連合会は、内容物を保護する強度や省エネに優れていること、輸送コストの削減など数多くある18リットル缶の良さをより多くの方に伝え、さらなる利用促進、普及を目指します。

リサイクル率調査の内容

化学原料、塗料、インキ、試薬、食品・食油などの18リットル缶の利用業界側と、鉄リサイクル業者・産業廃棄物処理業者、再生缶業者などの回収物受け入れ側の双方の各業界担当者にヒアリングを行い、各業界における18リットル缶の処理状況を調査、分析しました。2012年頃から、18リットル缶が大量に不正に廃棄されているという誤解が広まり、当連合会として正しい情報を把握することを目的に本調査を実施しました。

表1(2014年度リサイクル率)

	18リットル缶 仕向け量 (万缶)	リサイクル率 (%)	再資源化量 (万缶)
塗料・印刷インキ	5,600	90	5,040
化学	3,800	90	3,420
食品・食油	5,500	100	5,500
合計	14,900	93.7	13,960

公式ウェブサイト <http://www.can18.or.jp/top.html>

●18リットル缶とは

塗料、化学工業品、油脂、油糧、食料品、石油等の容器として用いられている、スチール製で内容物が18リットル入る缶を指します。出荷量は年間約1億5千万缶(平成26年度)でした。



●18リットル缶の日(5月18日)の由来

18リットル缶に名称が統一されたことを記念して生まれた日。そこで5ガロンの5と、18リットルの18から5月18日をその記念日としました。



●18リットル缶の5つの特徴

- (1)隙間なく積み上げられること。倉庫や荷台の省スペース化、輸送コスト削減、作業効率向上できる。10段以上の積み上げが可能。
- (2)人が手で運べる最大容量。運搬性と経済性の両立。
- (3)材質がスチールのため、衝撃に強く輸送中の破損事故を防ぐ。
- (4)スチール特有の密封性と光遮断性。食品から化学物質まで保護。
- (5)大量生産技術が確立されているため、安定品質と安価を実現。

●18リットル缶の呼び名について

当初石油を入れる用途が多かったので「石油缶」と言われていました。量が一斗だったので「一斗缶」という名称もありました。戦後は、内容量から「五ガロン缶」と呼ばれた時期もありました。現在ではJIS規格による正式名称で18リットル缶となりました。

【団体概要】

全国18リットル缶工業組合連合会
理事長 熊野達夫
設立:1957年3月1日
所属:33社
住所:〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館4F
TEL:03-5640-4041 FAX:03-5640-4042
URL: <http://www.can18.or.jp/top.html>